The Society for 17th-Century English Literature
十七世紀英文学会ニューズレター（2020 年度 第 2 号）
本部事務局　〒141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16　立正大学文学部　伊澤研究室内

1. 会長挨拶
2. 2020 年度総会のお知らせ

会長挨拶

圓 月 勝 博

コロナ禍の中、平穏な日常生活をなかなか取り戻せず、気もそぞろになりがちな日々が続いておりますが、会員の皆様におかれましては、健やかにお過ごしでしょうか。

先にお知らせしましたとおり、本学会も変則的な運営を余儀なくされており、不本意ながら、恒例の全国大会を中止し、総会も「メール審議」とさせていただくことになりました。事情ご高察の上、あらためまして何卒よろしくご理解の程お願い申し上げます。会員の交流を何よりも大事にしてきた本学会として、全国大会を見送らなければならなくなったことが返す返すも残念でなりません。

しかし、失うものがあれば、得るものもあります。今年に関して言えば、会員が一堂に会して親交を新たにする機会を失い、一人ひとりが孤独な研究生活を送らざるを得なくなったことで、同学の士が励まし合う学会（society）の有難さを再認識する格好の機会を得たと考えることもできるでしょう。

For solitude sometimes is best society,
And short retirement urges sweet return.
（ミルトン『失楽園』9 巻 249-50 行）

上に挙げたミルトンの端正な一節は、キケロの『義務について』の中の「一人ぼっちのときほど一人ぼっちでないことはない（numquam minus solus quam cum solus）」という人口に膾炙した言葉を踏まえています。17 世紀英文学を愛する方ならば、人の絆は会うことができないときに一段と強くなる、というミルトンが伝える古典の叡智に深く頷いてくださることでしょう。今年は交流をいったん控えたからこそ、来年になって多くの会員の皆様がまた全国大会に集まってくださったとき、再会を果たして酌み交わす美酒の味わいが一層甘美になることを心から楽しみにしています。

2020 年度総会のお知らせ

2020 年度全国大会は中止となりましたが、総会は「メール審議」のかたちで実施いたします。下記の「総会資料」をご確認いただき、ご意見・ご質問等がございましたら各支部の事務局までお知らせください。審議期間内に特段のご異議がなければ、ご承認いただいたものとさせていただきます。いただいたご意見・ご質問については、審議期間後に本部事務局からの回答を配信いたします。

【総会資料】

2020 年度十七世紀英文学会総会

日時：2020 年 10 月 7 日～10 月 21 日
＊メール審議にて開催

総会次第

【報告・連絡事項】
1　各支部活動報告
2　編集委員会報告
3　2019 年度会計報告

【審議事項】
1　2020 年度の全国大会について
2　学会ホームページ委員について

報告・連絡事項

1　各支部活動報告

各支部の支部例会については下記の通り開催されました。各支部ともに 3 月例会は新型コロナウィルス感染症拡大にともない中止・延期となっています。今年度については、オンライン開催も含めて各支部にて検討しています。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

会員動向について、2019 年度から現在までの各支部の入退会者数は次の通りです。

入会：	東北支部　4 名	東京支部　3 名	関西支部　1 名
退会：	東北支部　0 名	東京支部　1 名	関西支部　2 名

東北支部　活動報告

2019 年 10 月 26 日	川田　潤	原子論の受容／需要と詩的想像力と「美学」 ―― Thomas Creech の Lucretius の翻訳をめぐる問題
2019 年度 3 月		（新型コロナウィルスの影響により例会中止）

東京支部　活動報告

2019 年 11 月 30 日	松山　響子	『絶園のテンペスト』におけるシェイクスピア利用と表象
2020 年 1 月 25 日	小泉　勇人	米政治映画 *The Ides of March* (2011) と *Julius Caesar*
2019 年度 3 月		（新型コロナウィルスの影響により例会中止）

関西支部　活動報告

2019 年 6 月 29 日	金崎　八重	ミルトンと閉じられた世界
2019 年 12 月 21 日	竹山　友子	キャサリン・フィリップスの詩から紐解く Burning-glass の奇想の系譜
2020 年 3 月 14 日	西野 友一朗	（新型コロナウィルスの影響により例会中止）

2　編集委員会報告

ニューズレター第 1 号でご報告しましたとおり、論集 20 号のテーマは『十七世紀英文学における病と癒し』(*Sickness and Healing in Seventeenth-Century English Literature*)とさせていただきました。

刊行までの日程は、

原稿の締め切、2020 年 12 月 31 日、
論集の刊行予定、2021 年 8 月 30 日(予定)

となっています。会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしています。
なお、ご意見やご質問がありましたら、各支部の編集員までおよせください。

3　2020 年度会計報告
　別紙参照

審議事項

1　2021 年度の全国大会について

　昨年度の総会にて、2022 年度大会までは各支部持ち回りで秋開催とすることが承認されています。次年度もそれに従い秋開催（9 月開催）で準備を進めたいと思います。

【提案 1】
　2021 年度大会は秋開催とし、担当支部は 2020 年度大会の担当予定であった東京支部とする。それにともない担当支部のローテーションが 1 年ずつ繰り延べになるため、現行の「秋開催・支部持ち回り」による大会開催を 2023 年度大会までとし、以降の大会開催の方針については 2023 年度総会にて審議する。

2　学会ホームページ委員について

　本学会ホームページの管理・運営には「ホームページ委員」があたっていますが（現在は山本真司氏)、学会規約には記載がない状態のため、現状に合わせて規約の改正を行い、あらたに「ホームページ委員」を置くことを提案いたします。

【提案 2】
十七世紀英文学会規約の第 7 条を下記の通り改正する。

【現】
（組織および会の運営）

７ 本会は会長の他に次の役員をおく。
本部幹事若干名　　支部幹事各２名
編集顧問　　編集委員若干名　　会計監査２名
(2)本部幹事は会員の互選により総会で決定し、支部幹事と合議の上で本会の運営にあたる。
(3)支部幹事は各支部で選出し、本部に報告する。支部幹事は支部の運営の他に本部との連絡にあたる。なお、本部幹事と支部幹事が重複することは差支えない。
(4)編集顧問は編集委員会が委嘱する。
(5)編集委員は、当分の間、各支部より２名選出するが、東京支部は３名とする。編集委員は編集会議を開き、「ニューズ」「論集」等の編集にあたる。

【新】傍線部が改正箇所
（組織および会の運営）
７ 本会は会長の他に次の役員をおく。
本部幹事若干名　　支部幹事各２名
編集顧問　　編集委員若干名
会計監査２名　　ホームページ委員１名
(2)本部幹事は会員の互選により総会で決定し、支部幹事と合議の上で本会の運営にあたる。
(3)支部幹事は各支部で選出し、本部に報告する。支部幹事は支部の運営の他に本部との連絡にあたる。なお、本部幹事と支部幹事が重複することは差支えない。
(4)編集顧問は編集委員会が委嘱する。
(5)編集委員は、当分の間、各支部より２名選出するが、東京支部は３名とする。編集委員は編集会議を開き、「ニューズ」「論集」等の編集にあたる。
(6)ホームページ委員は学会ホームページの管理・運営にあたる。

【提案 3】
ホームページ委員を以下の通り交代する。
【現】山本真司氏
【新】大久保友博氏

以上の「報告・連絡事項」および「審議事項」について、ご意見・ご質問等がございましたら、10 月 21 日までに各支部事務局までお知らせください。審議期間内に特段のご異議がなければ、ご承認いただいたものとさせていただきます。いただいたご意見・ご質問については、審議期間後に本部事務局からの回答を配信いたします。

事務局他

＊本部事務局：伊澤　高志

＊本部会計：松田　幸子

＊東北支部事務局：川崎　和基

＊東京支部事務局：松山　響子

＊関西支部事務局：松本　舞

＊学会ホームページ委員：山本　真司

【別紙】

十七世紀英文学会 会計報告

2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）

収入		支出	
前年度からの繰り越し	616,394	論集第19号	400,000
会費収入　東北支部	42,000	HP更新費用	39,600
東京支部	153,000	通信・事務費（封筒・切手・振込手数料）	24,876
関西支部	105,000	大会開催費（会場費・コピー代）	20,750
第19号論集執筆料	60,000		
全国大会懇親会余剰金	54,500		
郵便貯金利子	4		
計	1,030,898	計	485,226

次年度繰越金　￥545,672

以上の通りご報告申し上げます。 2020年 9 月23 日

本部会計　松田幸子

会計監査　笹川渉